

空手で一番つらかったこと

平成20年12月23日

西東京本部浜田山支部 玉井 孝一

息子に自分で自分を守る術を身につけて欲しいこと、息子に心の強い人間になって欲しいこと、親子で共に同じことを習い同じ時間を多く過ごすことの3つが、私が空手を始めた理由である。その根底には、自分が弱い人間であることを自覚しており、息子には自分と同じ生き方をして欲しくないという思いが強かった。そのためか、同じ時間を過ごすことはできたものの、厳しく練習をさせすぎてきたため息子の心はかえって離れていってしまった。自分のとってきた態度は間違っているのか、常に自問自答してきたが、厳しいことは武道では当たり前と言いつけて続けた。ある日の練習中に市川本部長より、「自分で大したこともできないで、大貴に偉そうにいうな」といった内容のお叱りを受けた。実はそれまでは、自分の空手をやっている姿をビデオで撮ったことがなかったが、それなりにできているのではないかと思っていた。この一言で自分の姿を見てみたが、結果は自分が想像していた以上に何もできていなかったことに気づいた。私はその日から息子に厳しく言うだけではなく、自分自身をもっと鍛えることを心掛けた。致命的であった体の重さや硬さについて少しずつでも努力して改善していくことに毎日取り組んだ。特に柔軟性については、なかなか効果が表れずしんどさだけが目立ったため挫折しそうになったが、現在も継続しており、効果が得られるようになってきた。自分に厳しく「鍛え」を続けることが一番つらかったことであるが、今はそれを乗り越えることができつつあるのではないかと思っている。ふと気がつくと、このことこそ空手を始めた理由であり、息子に望んできたことであった。最近の息子との練習については、以前とは違う態度で向き合うことができるようになったと感じている。それはひとつの目標を達成しつつある自身のあかしだと信じたい。このような機会に巡り合うことができ、月心会や市川本部長、同支部の仲間たちに大きく感謝すると共に、自分と同じような思いを持った人たちの助けになるよう、これからも練習に精進していきたい。